



栄光の未来

R6.2.20
第20号

卒業式は、全校生徒で創り上げる！

昨日の全校朝会で、全校が揃った中で今年度最後の講話として卒業式の話をしました。思い起こせば、4年前のこの時期に起こった新型コロナウイルス感染症の発生・拡大により、3月が全国一斉で臨時休校となりました。多くの学校で卒業式の実施もままならない状況となり、東石山中学校でも参加者を大きく制限する形に変更して実施しました。



卒業式の学年練習がスタートしました！

その後、規模を縮小した実施が続いてきましたが、今年度の卒業式は以前の形に戻し、大勢の参加の下で盛大に行うこととしました。そのため、年度初めの計画では在校生の参加は2年生のみで1年生は参加しないこととなっていました。それを在校生が全員参加し、さらには来賓も大勢お招きする形での実施に変更しました。

新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に下がったことは、卒業式のスタイルを変更する理由の一つに過ぎません。卒業式で大切にしたいことが自分の中に明確にあるため、年度途中であっても大きく変更する決断を行ったのです。

- 卒業式の主役は3年生、準主役は保護者ではなく1・2年生である。
- 卒業生の姿を目に焼き付けることが、在校生にとって大きな学びとなる。
- 卒業生、在校生が全て揃うことで、それぞれの自覚と決意がいっそう高まる。
- 全校生徒で創り上げてこそ、義務教育の最後を飾る卒業式としての意味がある。

コロナ禍で、様々なことで「中止」や「簡素化」が進みました。もちろん、このことのよさもあります。しかし、本質を見失い、楽なことを求めてスリム化が進むことに、大きな危惧を抱いています。



学校での授業もあとわずか。3年生の真剣さが伝わってきます！

時代が大きく変わっていく中で、ひと・もの・こととの豊かなかわりや、 パーチャルやオンラインではなく身をもって体験すること、 困難やトラブルを乗り越えて高まり合うために集団の中で学ぶことは、これまで も、そしてこれからも学校教育の中核であり続けなければならないと考えます。

今年度の卒業式では、最後に全校で校歌を歌います。今年度、4年ぶりに復活した全校での校歌斉唱を式の最後に位置付け、主役である卒業生と準主役である在校生による協働で声高らかに歌い上げ、式を締めくくりたいと思います。

七段飾りの雛人形が図書館に！

毎年この時期になると、地域の方がボランティアで図書館に雛人形を飾ってくださっています。とても立派な七段飾りの雛人形で、図書館を訪れる生徒の目を楽しませ、心を癒やしてくれています。

